

第70回 大阪税関行政懇談会

January. 31. 2024



We Find the Way



NIPPON EXPRESS CO., LTD.

日本通運株式会社 執行役員
関西ブロック地域総括 兼 大阪支店長

おぐろ かずおき

小黒 一興

世界的集客・交流ゾーンの中核ビジネス

2024



みどりとイノベーションの街
グラングリーン大阪

『「みどり」と「イノベーション」の融合拠点』の形成に向け、新駅設置や公園等の基盤整備事業を進めるとともに、イノベーション創出機能の核となる総合コーディネート機関を設立するなど、官民連携した取組みを推進。うめきた2期区域全面開業

2025. 4▶10



大阪・関西万国博覧会

大阪・関西万博は令和7年4月13日に開幕。万博は大阪湾の人工島、夢洲（ゆめしま）（大阪市此花区）を会場に半年間にわたって開かれ、想定来場者数は約2820万人、経済波及効果は約2兆円を見込む。

2030▶



統合型リゾート施設

大阪・関西の持続的な経済成長のエンジンとなる世界最高水準の成長型IRの実現し成長産業たる観光分野の基幹産業化を図り大阪経済と我が国全体の観光及び経済振興の起爆となることを目指す。想定経済波及効果は、建設時1兆5千億、開業以降は1兆1千億円。

物流の2024年問題とカーボンニュートラル推進



2024.4 ▶

物流業の2024年問題

2024年4月以降、働き方改革関連法、改善基準告示の改正によって、ドライバーの時間外労働が最大で年間960時間、また、1日の休息時間というのは、改正前はこの8時間以上、インターバルを空ければ良かったんですが、改正後は継続して11時間以上を基本とし、9時間を下回らないという取り決めになる。



▶ 2030目標

カーボンニュートラルの推進

日本は、2021年4月に、2050年カーボンニュートラルと整合的で、野心的な目標として、2030年度において、温室効果ガス46%削減（2013年度比）を目指すこと、さらに50%の高みに向けて挑戦を続けることを表明しました。

3. 物流の役割

『物流革新に向けた政策パッケージ』策定



物流の適正化・発展性向上に向けた
物流事業者・荷主企業間の取組に関するガイドライン

国土交通省
経済産業省
農林水産省
国土交通省

国土交通省は、物流の適正化・発展性向上に向けた、物流事業者（運送・倉庫業）、荷主企業間の取組を促進し、適切な取組を促すための取組を推進することを必要とする。本ガイドラインは、物流事業者、荷主企業間の取組を促進し、適切な取組を促すことを目的として、物流事業者間の取組に関する取組を推進することを目的とする。

1. 物流事業者・荷主企業間に共通する取組事項

(1) 取組が必要な事項

■物流事業者間の取組・取組事項

①取組の時期、取組の場所、取組の主体、取組の目的、取組の範囲、取組の責任、取組の費用、取組の利益、取組のリスク、取組のその他の事項

②取組の目的、取組の時期、取組の場所、取組の主体、取組の目的、取組の範囲、取組の責任、取組の費用、取組の利益、取組のリスク、取組のその他の事項

③取組の目的、取組の時期、取組の場所、取組の主体、取組の目的、取組の範囲、取組の責任、取組の費用、取組の利益、取組のリスク、取組のその他の事項



① 商慣行の見直し

- ▶ 荷主・物流事業者間における物流負荷の軽減（荷待ち、荷役時間の削減等）に向けた規制的措置等の導入
- ▶ 納品期限（3分の1ルール※、短いリードタイム）、物流コスト込み取引価格等の見直し
- ▶ 荷主・元請の監視の強化、結果の公表、継続的なフォロー及びそのための体制強化（トラックGメン）
- ▶ 物流の担い手の賃金水準向上等に向けた適正運賃收受・価格転嫁円滑化等の取組み
- ▶ トラックの「標準的な運賃」制度の拡充・徹底

② 物流の効率化

- ▶ 即効性のある設備投資の促進
- ▶ 物流GX（GREEN TRANSFORMATION）の推進
- ▶ 物流DX（DIGITAL TRANSFORMATION）の推進
- ▶ 「物流標準化」の推進（パレットやコンテナの規格統一化等）

③ 荷主・消費者の行動変容

- ▶ 荷主の経営者層の意識改革・行動変容を促す規制的措置等の導入
- ▶ 荷主・物流事業者の物流改善を評価・公表する仕組み創設

4. 物流の取り組み

『物流の効率化』に向けた具体的取組み（事例）

取組

即効性のある設備投資

改善により短期間で効果が実証できる取組み

- 自動化・機械化
- 到着時間指定
- バラ貨物のパレット化推進

物流GX

GREEN TRANSFORMATION

温室効果ガスの排出を削減する脱炭素社会に向けた取組み

- 鉄道・船へのモーダルシフトを推進
- 最適なモード（陸・海・空）を活用したモーダルコンビネーション

物流DX

DIGITAL TRANSFORMATION

デジタル技術を活用して物流を改善する取組み

- 無人荷役機器、共同輸配送、求貨求車システム、パス予約システム、配車管理等

物流標準化

ソフト・ハード面の基準を整え物流効率化を図る取組み

- 官民※2で定める、標準仕様のパレットの利用拡大
- 手荷役の改善

事例

日本通運、アサヒ飲料、日清食品が関東～九州間における共同輸送を2020年9月11日から開始

これまではお客様単位に東京⇄福岡間を自動車で輸送



新たなモーダルコンビネーション



輸出入における『物流の効率化』の課題

課題
Theme 「輸入許可・上屋搬出待ち」などによる
輸送ドライバーの待機（拘束）時間の解消

対策
（案）上屋搬出時間（目安）の見える化（⇒デジタル化）
バス管理予約システムによる接車目安時間を
ドライバーへ提供（通知）し運行プランを決定



2024.4 ▶

物流業の2024年問題

2024年4月以降、働き方改革関連法、改善基準告示の改正によって、ドライバーの時間外労働が最大で年間960時間、また、1日の休憩時間というのは、改正前は8時間以上、インターバルを空ければ良かったんですが、改正後は継続して11時間以上を基本とし、9時間を下回らないという取り決めになる。



EXP02025の『物流の効率化』に向けた課題

課題① Theme

万博会場搬出入車両による交通渋滞の抑制と 会場内物流の整流化

対策



万博会場搬出入貨物（パビリオン展示物等）をシステム（トレーサビリティ）で管理し、同日搬入の貨物を積合し会場へ搬入。車両台数の低減・会場付近一般公道の交通渋滞緩和、会場内搬入車両の輻輳を解消。



EXP02025の『物流の効率化』に向けた課題

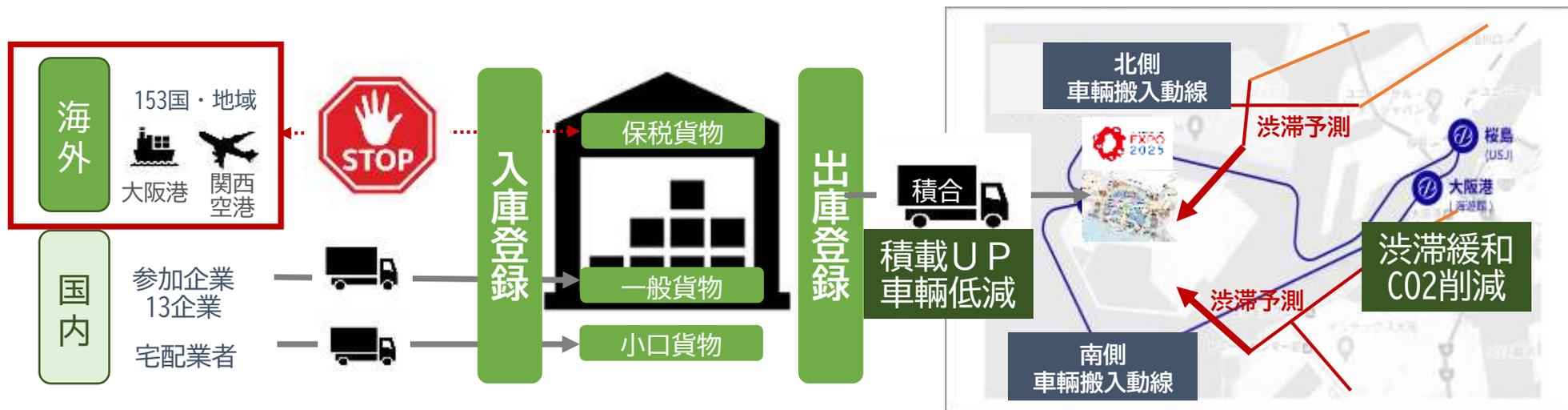
課題② Theme

円滑な輸出入許可に向けた海外出展者の理解

提言



出展者（＝輸入者）の輸出入に関する必要な商品知識・貿易知識の醸成を図るために、博覧会協会から出展者（各国）に対するガイドラインの補足説明等を加えていただきたい。正しい通関申告及び他法令で定められた確実な手続きにより円滑な輸出入を実現





本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。
また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。
万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。
詳しくはこちらのサイトを御覧ください。 <https://www.nittsu.co.jp/ir/disclosure/>